

平成28年度岡山市市民協働推進モデル事業報告書

実施団体	団体名	特定非営利活動法人 ポケットサポート (担当者 山口そのえ)			
	合同実施団体 (* 協議体・実行委員会等で実施した場合、構成団体をすべて記載してください。)				
協働した岡山市の 担当課等と担当者	課名	健康づくり課		電話	086-803-1271
	担当者	職名	保健師	職名	係長
	2名	氏名	那須 潤子	氏名	富岡 幸栄
事業の名称	慢性疾患を抱える子どもの自立を目指す学習・復学支援および交流を支援する場 「ポケットスペース」				
<p>本事業により解決を目指した課題とその成果</p> <p>※アンケートなどあれば添付してください。</p>	<p>厚生労働省の(平成25年～調査)によると慢性疾患を抱える小児対象者数は全国で10万8,790人になる。岡山市でも約800人の子どもたちが対象になっている。慢性疾患を持つ子どもや若年成人の成長を助け、患者が社会で自立できるように支援する取り組みにも大いに改善すべき余地があると、同省からの報告もある。平成26年度に岡山県の依頼により小児がん医療チームで院内学級に通ったことのある小児がんに罹患した子ども40名に行った調査の中でも、復学の重要性が認められ、入院中だけでなく退院後も支援を行う必要性が明らかになった。現在、岡山市内には4施設6学級の入院中の子どもが通う院内学級があるが、すべての施設に設置されているわけではない。岡山市内の総合病院の2か所で入院中の子どもの学習環境について調査を行った。入院後、病状が安定してもすぐに退院となるわけではないため、病状への心配だけでなく、学習の遅れや同級生との交流が途絶えることに不安を感じている患児が入院していることがわかった。学習・交流支援の必要性は医療者も感じており、ポケットサポートのような病弱児支援を専門に活動しているNPO法人と連携することの必要性を理解していただくことができた。今後病院と協力し、調査研究を実施することになった。調査については、アンケート用紙を用いて行う予定で、健康づくり課と質問項目を検討し調査用紙を作成した。現在ポケットサポートスタッフ所属の倫理審査および調査実施病院の倫理審査に承認を得ることができている。今後長期入院中の学習・交流状況と必要な支援の提言ができると思われる。</p> <p>さらに、長期入院を終え、退院し自宅に戻ってもすぐに学校に通学することはできない。病気を理由に長期欠席している子どもは、26年度の岡山市の調査によると、小学生247人、中学生243人であった。医療制度改革により入院期間は短縮されているため、抗がん剤投与の間隔や手術のための検査待ちの期間など、数週間でも退院し、外来通院しながら過ごすため、復学はできず、病院内に設置されてある院内学級に通うこともできない状況が発生する。この課題解決のため、慢性疾患を抱え自宅療養中や外来通院をしている子どもに対し、学習及び交流活動の場ポケットスペースを運営した。利用者はのべ101名であり、ポケットサポートスタッフや大学生ボランティアから、学習支援を受け学力の補充だけでなく、知育ゲームを利用し、子ども同士で交流することができ、子どもの学習の遅れへの不安軽減や交流支援を行うことでスムーズな復学へとつなげる一助となった。</p> <p>任意団体としての4年間にわたる活動を通じ、子どもたちや保護者から学習や復学への相談に応じる中で、長期の治療にともなう社会体験の不足が明らかになった。また地域や社会においては、慢性疾患を抱える子どもの環境について理解がまだ浸透しておらず、彼らが安心して過ごすことのできる社会を作るための啓発が必要である。そのため、病弱児教育の先駆者である昭和大学の副島賢和准教授をお招きし、一般市民、教育・医療・行政に関わる方や学生に講演会を1回行った。この啓発事業により、慢性疾患の子どもの置かれている環境や支援の必要性、支援の方向性など参加者それぞれの立場で学ぶことができ、慢性疾患を抱える子どもへの今後の支援につながる一助となったと考える。</p>				

市と協働した内容と協働の効果	<p>岡山市健康づくり課は、当団体が慢性疾患を抱える子どもの自立支援事業が展開できるよう、小児慢性特定疾病児童等自立支援事業の必須事業を行っている小児慢性特定疾病児童等相談支援センターとの橋渡しをし、事業を実施するための提携を行う準備をすることができた。</p> <p>また、岡山市健康づくり課は、岡山市教育委員会と当団体の橋渡しをし、教育者が学習支援の必要な慢性疾患を抱える子どもの学習環境の理解をさらに深めていただくことができるよう協議することができた。さらに岡山市教育委員会に講演会の案内を依頼することができ、岡山市内の教育機関に紹介配布していただくことで、参加者の増員につながった。</p> <p>将来的に小児慢性特定疾患児童等自立支援事業の実施団体となることを目的としているため、担当課とニーズの確認や予算の吟味など、実態を明らかにしながら制度づくりに向けて検討することができた。</p>								
<p>事業の内容</p> <p>※事業内容が具体的にわかる資料を添付してください。(チラシ、報告書、写真等)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 長期入院にもなる学習の遅れなどについての学習・復学支援「ポケットスペース」の運用 2016年5月より学習・復学・交流支援を必要とする子ども101人が参加した。参加者はボランティア大学生とともに楽しく学習することができていた。ときには悩みを話す子どもや保護者もあり、精神的支援をするなど利用者の特性に合った運営を行うことができた。また、「ポケットスペース」は、医療・福祉・教育学部の学生にとって、慢性疾患を抱える子どもへの理解の場にもなっている。 2. 院内学級を有しない岡山市内の総合病院であるA・B病院2か所に入院中の子どもの学習環境調査 5月31日A病院での聞き取り調査をおこなった。学童期の児が長期入院を必要とする疾患の場合、他病院に転院するようになっており、岡山県内の病院小児科がシステム化されていることがわかった。 6月2日と11月24日にB病院での聞き取り調査を行った。B病院は長期入院が必要となる疾患を持つ学童が入院しており、病状が安定してもすぐに退院となるわけではないため、病状への心配だけでなく、学習の遅れや同級生との交流が途絶えることに不安を感じている患児は数名いることがわかった。学習・交流支援の必要性は医療者も感じているが、病棟管理上担任以外の教育者を導入することは難しく、ポケットサポートのような病弱児支援を専門に活動しているNPO法人が支援に入ることは望ましいとの意見をいただいた。今後B病院と共同で、調査研究を行うことが決定しており、さらに院内学級を有しない病院に長期入院する子どもの学習環境について明らかになると考える。 3. 病気の子どもたちの環境理解のための講習会や講演会 平成28年7月10日に病弱児教育の先駆者である昭和大学の副島賢和准教授をお招きし、一般市民、教育・医療・行政に関わる方や学生に講演会を行った。チラシ、写真を添付する(120人参加) 								
事業実施の体制・実施者名	<ol style="list-style-type: none"> 1. 総括責任者 三好祐也 2. 個別事業責任者 学習支援 三好祐也 講演会 松本圭子 病院との調整 山口そのえ 3. その他事業従事者 役割・氏名 ボランティアコーディネーター 奥田 修平 								
事業実施経過	<table border="1" data-bbox="478 1512 1428 1836"> <thead> <tr> <th>月 日</th> <th>実施事業内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>28年5月11日～ 29年2月23日 水・木曜日</td> <td>慢性疾患を抱える子どもが安心して通えるフリースペース「ポケットスペース」の運営を行った。</td> </tr> <tr> <td>28年7月10日</td> <td>慢性疾患を抱える子どもへの学習支援活動について講演会を開催。 昭和大学院准教授 副島 賢和 先生</td> </tr> <tr> <td>28年6～11月</td> <td>院内学級を有しない市内総合病院2か所に「入院、通院している患児の学習環境」について小児科医師に聞き取り調査を行った。</td> </tr> </tbody> </table>	月 日	実施事業内容	28年5月11日～ 29年2月23日 水・木曜日	慢性疾患を抱える子どもが安心して通えるフリースペース「ポケットスペース」の運営を行った。	28年7月10日	慢性疾患を抱える子どもへの学習支援活動について講演会を開催。 昭和大学院准教授 副島 賢和 先生	28年6～11月	院内学級を有しない市内総合病院2か所に「入院、通院している患児の学習環境」について小児科医師に聞き取り調査を行った。
月 日	実施事業内容								
28年5月11日～ 29年2月23日 水・木曜日	慢性疾患を抱える子どもが安心して通えるフリースペース「ポケットスペース」の運営を行った。								
28年7月10日	慢性疾患を抱える子どもへの学習支援活動について講演会を開催。 昭和大学院准教授 副島 賢和 先生								
28年6～11月	院内学級を有しない市内総合病院2か所に「入院、通院している患児の学習環境」について小児科医師に聞き取り調査を行った。								

	名称	期待される役割
実施上で連携した団体とその内容	岡山市教育委員会	情報の共有
	小児病棟を有する市内総合病院	情報の共有
	岡山大学病院	学習支援事業への理解及び学習支援場所の提供
	岡山市内の大学、教育医療福祉に関連する学部	学習支援活動を行うボランティア大学生の窓口 講演会開催の紹介の場を設ける
	がんの子どもを守る会岡山支部 心臓の子どもを守る会 岡山支部 患者会あゆみの会	情報交換
	本事業を踏まえた、 翌年度以後の予定	<p>■NPOがネットワークを構築し、他団体と連携し実施する予定。 <input type="checkbox"/>岡山市の一般施策として実施する予定。 ■翌年度も協働で実施する予定。 <input type="checkbox"/>その他（ ）</p> <p>-----</p> <p>具体的な計画があれば記載してください。 ポケットスペースの継続と充実および、医療・福祉・教育学部のボランティア大学生のスキルアップ。 啓発及び施策へつなげるため講演会の開催。 岡山市小児慢性特定疾病児童等相談支援センターとの連携強化。 院内学級を有しない岡山市総合病院における子どもの学習環境調査を共同研究によって行う。 院内学級を有しない総合病院での夏休み週1回程度の学習の場づくり 岡山市小児慢性特定疾病児童等相談支援センターとの連携強化による出張相談窓口、保護者交流の場づくり</p>

平成28年度市民協働推進モデル事業収支決算書

事業名	慢性疾病を抱える子どもの自立を目指す学習・復学支援 および交流を支援する場「ポケットスペース」
-----	--

<収入>

費目		金額	内訳
自己資金	実施団体	269,565	自己資金
	その他	0	
自己資金等合計(a)		269,565	
事業収入	講演会参加費	35,000	7/10講演会参加料 社会人70人×500円
事業収入合計(b)		35,000	
その他収入		0	
その他収入合計(c)		0	
岡山市補助金決定額(d)		1,214,000	
収入合計(e)=(a)+(b)+(c)+(d)		1,518,565	

<支出>

費目		金額	内訳	証拠書類番号
事業実施経費	人件費(病弱児への学習支援指導)	403,500	269時間×1500円	①
	人件費(ボランティアコーディネーター)	549,000	549時間×1000円	②
	人件費(講演会スタッフ)	15,000	5人×3時間×1,000円	③
	学習支援ボランティア交通費	64,800	81人×800円	④
	使用料(学習支援会場) " 冷暖房費込	0		
	印刷製本費(事業案内チラシ)	81,767	講演会チラシ印刷費53,187円 ポケットスペース広報チラシ9,690円 活動紹介チラシ18,890円	⑤ ⑥ ⑦
	消耗品費(教材)	189,796	教材教科書ガイド27冊 58,860円 教材辞書辞典12冊 38,596 教材用電子辞書3台・ケース 79,198円 ホワイトボード・スクリーン 13,142円	⑧ ⑨ ⑩
	報酬費(講演会講師)	30,000	講師1名50,000円のうち30,000円	⑪
	交通費(講演会講師)	62,970	東京⇄岡山新幹線、市内交通費32,600円 講師宿泊費 30,370円	⑫
	使用料(講演会場)	0		
	文具等消耗品	19,511	子どもの出席チェック用ICカード用シール 3,282円 レターケース・リングファイル・ファイル用ポケット・印刷用紙・インク 11,605円 のりボールペン等文具 4,624円	⑬ ⑭ ⑮
	通信費	24,746	講演会案内送付 6,326円 活動紹介チラシ 送付 18,420円	⑯ ⑰
	印刷製本費(アンケート調査票)	7,672	調査のための倫理審査資料、調査用紙印刷費 7,672円	⑱
	事務処理のための人件費	58,400	73時間×800円	⑲
事業実施経費合計(f)		1,507,162		

管理 運 營 費	會議費	11,403	茶葉購入費 11,403円	⑳
管理運営費合計(g)		11,403		
総事業費(h) = (f)+(g)		1,518,565		